

3/9

2019.3.9

平成21年3月15日に延岡市野地町の五ヶ瀬川堤防に河津桜が植樹されてから、間もなく10年がたつ。「コノハナロード」の愛称で親しまれる堤防の景観づくりに尽力した一人、松田庄司さん(76)＝同市夏田町＝は毎日のように足を運び、花々の手入れを続ける。「あいつがいなかつたらできなかつた」。その胸にある一人の友人の思いが引き継がれていた。

コノハナロード 10年

その男性とは同市出身で横浜市在住だった高倉さん。松田さんと高倉さんは同じ昭和17年生まれで、延岡高校の13回生。両親同士は同じ大分県出身ということで親しかったが、当時の2人はまだそれほどの交流はなかった。卒業後、松田さんは東京都、高倉さんは北海道の大学へ進んだ。

それから四十数年。大きな契機になったのは平成19年だった。県外の建設会社を先年退職して帰郷していった松田さんは、「1年前になくなった同期生のシナリオライター秋田佐知子(本名・幸子)さんの遺作展を企画し、同期生数人と半年以上かけて準備。10日間の会期中に全国から同期生が次々と集まり、横浜市在住だった高倉さんの姿もあった。

定後には延岡でゆっくり過ごすつもりだった松田さんが、20年4月にあった1本の電話が慌ただしい日夕へと戻った。相手は交説が復活した高倉さん。「さるぎとに戻しがしたい。河津桜を植えて花の名所をつくりたい」との思いを電話やメールでコノハナロードへの導火線になつた。

恩返しと河津桜

松田さんは「延岡花物語」の会期中に全国から同期生が次々と集まり、横浜市在住だった高倉さんの姿もあった。

心配していた苗木の購入資金も、昭和17年生まれの延岡出身者有志が集つ「延岡はげらし会」が、関東在住の同期生に呼び掛けて100万円以上が集まつた。そして、平成21年3月15日、約250人のボランティアの手で河津桜130本が植えられた。コノハナロードが誕生した瞬間だった。

「秋田さんの遺作展に同期生が集まつたことで絆が生まれた。その絆がコノハナロードへの導火線になつた」。昨年2月24、25日の延岡花物語。このはなウォークを訪れた高倉さんは桜の花に大喜び。ものすごく楽しそうで、あんなにうれしそうなどいろは見たことがないほど。実は2日前に病院を退院したばかりだった。

高倉さんは数年前から病気を患い、医師から「長くは持たない」と告げられていた。自身の状態を理解しておきたかったのだ。横浜から延岡に足を運び、立派に成長した桜

を見ながら、適した場所はなかなか見つからなかつた。半ば諦めていた9月下旬、谷平さんから電話があつた。最高の場所が見つかりました。そこは野地町の五ヶ瀬川堤防。東九州自動車道延岡ICから延びる県道沿いにあり、まさに「玄関口」で市民も観光客も目ににする場所だつた。

当初から協力してきた松田さんと高倉さんだったが、互いに河津桜への強い思いから意見が対立すること何度もあつた。それも年々成長する桜が喜びとなつて消してくれた。

昨年8月、天国へ旅立つた。高倉さんは数年前から病気を患つた。高倉君の頼みじやなければ引き受けられないが、花が好きだととても熱心。そういう人が必要なんだと思った」と、きっかけをつくりてくれた」と松田さん。追憶の気持ちを込めて1月に植えた桜は、天に向かって真っすぐ伸びている。

「高倉君の頼みじやなければ引き受けられないが、花が好きだととても熱心。そういう人が必要なんだと思った」と、きっかけをつくりてくれた」と松田さん。追憶の気持ちを込めて1月に植えた桜は、天に向かって真っすぐ伸びている。



植樹から間もなく10年を迎える河津桜(2月23日)

天下一ひむか桜の会
松田庄司さん

たと思う。松田さんはそう振り返る。それからさらにもう年かけて堤防2・3方に300本を植栽。春にはビンクの桜と相性のいい菜の花も約100万本植え、花の名所として知られるようになつていつた。26から始まつた観光イベント「延岡花物語」ではメイン会場の一つとなり、県内外から多くの観光客が訪れるようになつた。



ル、時には帰郷して直接伝えてきた。松田さんは「送つてくれた写真もきれいだった。素晴らしい話だし、できぬならやつてみよう」と愛語。旧知の市職員から、延岡アースディケーツ者たちから熱心な谷平興二さんを紹介され、思いを伝えると脅同し、協力を約束してくれた。

とほしこ、適した場所はなかなか見つからなかつた。半ば諦めていた9月下旬、谷平さんから電話があつた。最高の場所が見つかりました。そこは野地町の五ヶ瀬川堤防。東九州自動車道延岡ICから延びる県道沿いにあり、まさに「玄関口」で市民も観光客も目ににする場所だつた。

「よくやつたな」

と花々を楽しむ市民の姿を目に焼き付けた。「よくやつたな」。その言葉を残して昨年8月、天国へ旅立つた。高倉君の頼みじやなければ引き受けられないが、花が好きだととても熱心。そういう人が必要なんだと思った」と、きっかけをつくりてくれた」と松田さん。追憶の気持ちを込めて1月に植えた桜は、天に向かって真っすぐ伸びている。

「高倉君の頼みじやなければ引き受けられないが、花が好きだととても熱心。そういう人が必要なんだと思った」と、きっかけをつくりてくれた」と松田さん。追憶の気持ちを込めて1月に植えた桜は、天に向かって真っすぐ伸びている。

「いつの日か桃源郷」はもうすぐ――

21年2月の植樹後からコノハナロードの維持管理をしてきたのは、松田さんら地元同期生が中心になつて結成した「天下一ひむか桜の会」。2・3年の堤防を限られた人數で手入れするには多くの困難があつた。

28年2月には市民有志が集い「コノハナロード市民応援隊」が結成され約85人が所属。桜と菜の花だけではなく、彼岸花やコットン、アサギマダラが好むフジバカマ、モツツア

ーのバラ、東瓜場の花壇などを新いプロジェクトも立ち上がり、洋風化粧化している。当初から代表として引っ張つてゐる松田さんは「一年の多くの日は撮影を運営。同期生も毎年資金を貢献しててくれる。谷平さんの情熱で、人を惹きつける力は大きい。今年で10年を迎えたおかげで、年々大きくなつた。昨年は100人以上のボランティアが関わって、そうした思いの結実したわら花物語だらう。国土交通省や県、の後押しも強くなつてきた。いままで大きくなるとは思つてなかつた」と感慨深く。

「いつの日かあることに桃源郷夢は今、花々が咲き誇る堤防の風景。その思いで始まつた高倉さん。その後押しも強くなつてきた。いつも育つてきている。松田さんにはない近づいてきたか。あともう少し、10年ぐらいはかかる」と。その思いで始まつた高倉さん。その後押しも強くなつてきた。いつも育つてきている。松田さんにはない近づいてきたか。



コノハナロードと延岡花物語の誕生経緯が記された記念碑と松田庄司さん。碑文の冒頭には「高倉雄三」の名前も刻まれている





延岡アースデイ 17日開会式 3/19 大瀬大橋下流 かわまち交流広場

第26回延岡アースデイ開会式は、17日前8時から延岡市大貫町の大瀬大橋下流左岸の「かわまち交流広場」で開かれる。小雨決行。荒天時は24日に延期。県北の企業や団体が参加、開会式を中心に五ヶ瀬川流域の21カ所で清掃、植樹、不法投棄撤去などの活動を展開する。主催は、同実行委員会（敷石輝幸実行委員長）。

開会式を前に実行委員会の最後の全体会議が7日、同市本小路の市社会教育センターであり、参加企業や団体の代表ら約40人が協議した。敷石実行委員長は「あと10日。

各フィールドの責任者のもと、間違いないように確認してほしい」とあいだ後、会場ごとに分かれて責任者が、用意す

第26回延岡アースデイ実行委員会の全体会議 7

るものや開会式から会場への移動、現地の集合場所や活動の流れなどについて説明。ごみの分別方法や役割分担などについて各グループで話し合った。

決まっている企業や団体だけでなく、参加したい人は当日各会場で申し込んでもよい。問い合わせ、申し込みは同実行委員会（☎080-3182-3136）。

その後、会場ごとに分

かれて責任者が、用意す